

改訂の序

本書の初版が出版されてから12年が経ちました。これまで一度も改訂することなく長い年月が経過してしまったことをお詫びします。この12年間、私は自分の勤務する病院では提供するプラクティスを常に最新のものとするようにアップデートに努めてきたつもりですが、本書の読者に対しては内容をアップデートする義務を果たしてこなかったことを深く反省しています。今回の改訂にあたってはこの反省に基づいて現時点で最新の内容となるように大幅な書き直しを行いましたのでどうかお許しください。

なお改訂にあたっては、単に内容を最新のものにアップデートするのではなく環境の変化（標準的な医療を実践することが求められるようになったこと、分娩の集約化が進み周産期医療における麻酔科医の役割が大きくなったこと、無痛分娩が急速に普及したことなど）に対応することを心がけました。

一方で今回の改訂でも変えなかったのは、本書に込めた私の仲間である麻酔科医へのメッセージです。私は、麻酔科医がそのキャリアの途中で燃え尽きないためには仕事に対する誇りとやりがいを感じる事が重要であると考えています。このメッセージがあったからこそ、初版は出版から12年間、内容が多少古くなっても多くの読者に読んでいただけていたのだと感じています。しかし、残念なことにこの12年間で麻酔科医がやりがいを感じながら働ける環境が整ったかという点必ずしもそうではありません。そこで改訂版でもこのメッセージは変えないように留意しました。

このように今回の改訂にあたっては変えなければいけないことと変えてはいけないことのバランスをとるのに苦心しましたが、編集部の大冢有紀子様と阿部壮岐様のおかげで納得のいく改訂を終えることができました。お二人のご支援に感謝するとともに、本書が周産期医療に関わるスタッフとそれを受ける患者さんのために役立つことを願っています。

2024年6月

角倉弘行